

DIASにあるデータを加工して研究に活用した例

2018年7月

バイアス補正済みd4PDF過去再現・非温暖化過去気候データをDIASに登録

<https://doi.org/10.20783/DIAS.544>

2017年4月－2019年3月

JSPS二国間交流事業
フランス外務省, IPSL

2018年12月

農研機構・国環研・気象研の
合同プレスリリース（論文公表）

2019年9月

バイアス補正済みd4PDFを用いた西アフリカの
ミレット・ソルガム収量の影響評価（論文公表, IPSL/IRDと共同）

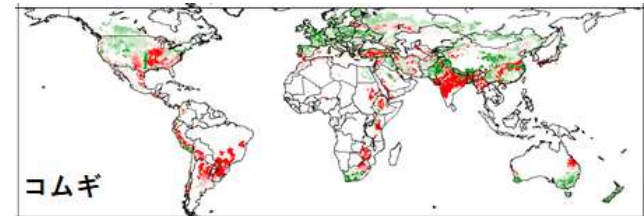
2020年10月

気候・土地利用・生物多様性のシナジーに関する日仏ワークショップ開催
主催：駐日フランス大使館, 協力：農研機構, 参加：INRAE, CIRAD, IRD, NARO, JIRCAS

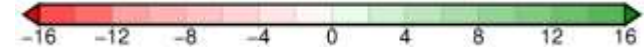
2021年1月

IPCC WG2 AR6 Government & Expert Review

地球温暖化による穀物生産被害は過去30年間で
平均すると世界全体で年間424億ドルと推定



収量が
減少



収量が
増加

気候変動による過去30年間の収量影響
(気候変動がなかったと仮定した場合の収量に対してする%)

作成したデータがDIASを介して活用された例

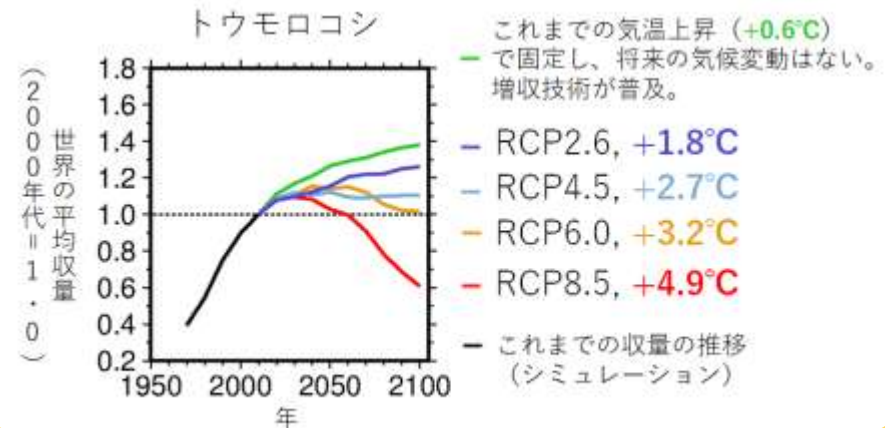
2017年8月

作物収量の将来シナリオデータをDIASに登録

<https://doi.org/10.20783/DIAS.529>

農研機構・国際農研・国環研の
合同プレスリリース（論文公表）

温暖化の進行で世界の穀物収量の伸びは鈍化する



2019年6月以降

食料品製造業者や経営コンサルタント業者などからデータについて問い合わせが寄せられ始める

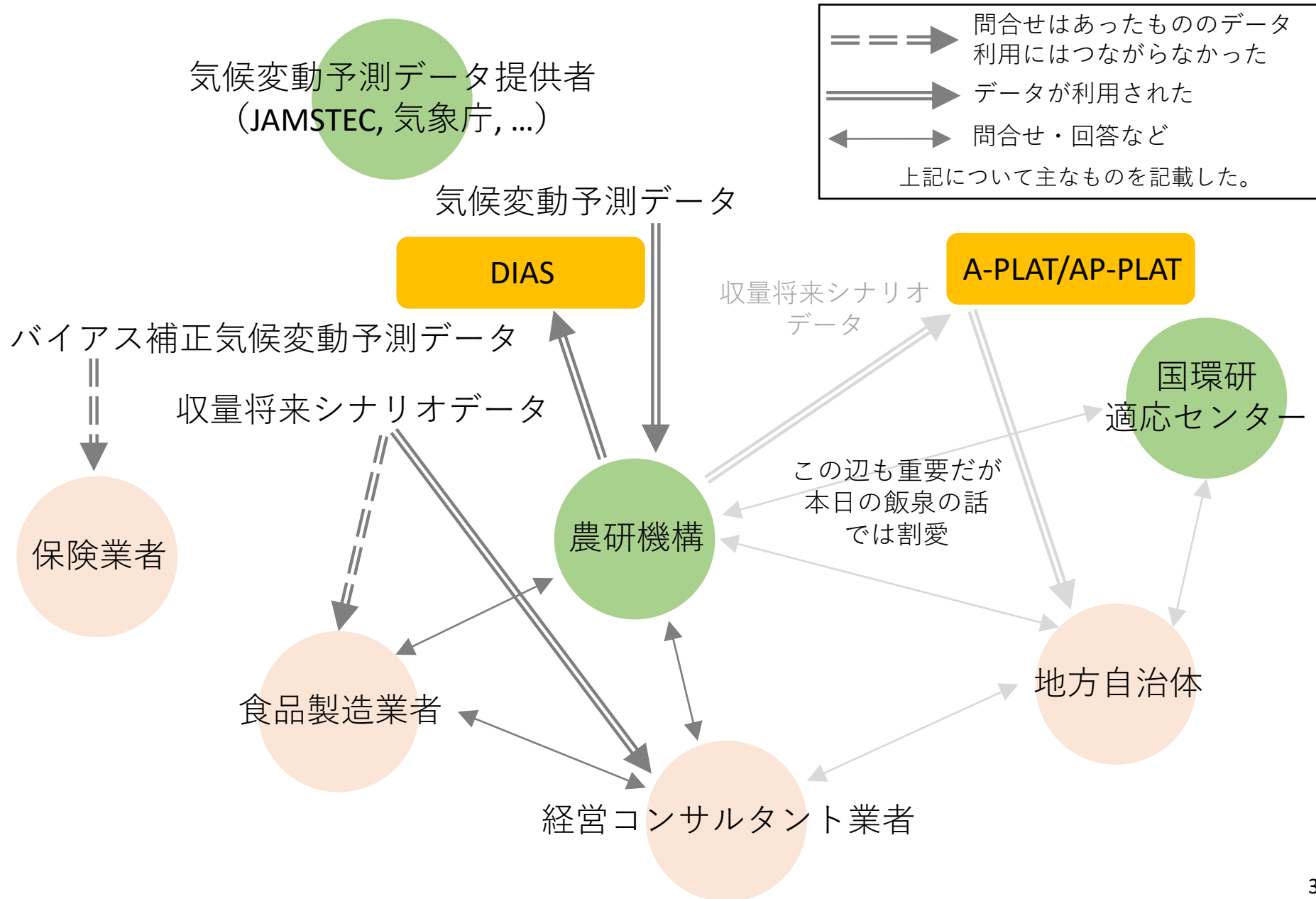
食料品製造業

- 社会からの要請（SDGs）や投資家からの要請（ESG投資）を踏まえてTCFD, CDP対応を進める前段階の情報収集のため、主要原材料（穀物）の需給に気候変動が与える影響について調査

経営コンサルタント業者

- 企業向けに気候変動シナリオ分析の支援やCSR活動の支援を実施

作成したデータがDIASを介して活用された例（続）



データについて寄せられる問合せはさまざま

■ データについて既に良く理解している利用者の方からの質問

- RCP/GCM/SSP別の国平均収量の将来シナリオデータを提供してほしい
→有償技術相談で対応
- IPCC陸域特別報告書のFig. 5.7のデータ（食料価格の将来シナリオデータ）を利用したい →別の研究者を紹介
- バイアス補正済みd4PDFデータ中の“wind10m”は元データにおける“日平均 2次元データ (sfc_avr_day_XXX_yyyymm.grib)”と“日最高値 2次元データ (sfc_max_day_XXX_yyyymm.grib)”のどちらに対応するものですか？

■ データについてこれから理解していく利用者の方からの声

- NetCDFデータを参照する環境が社内に整っていないため、環境構築後、改めてデータに関してお伺いします。

■ 対応にやや苦慮した問合せ

- 冬コムギ、オオムギ、アブラヤシ、キャッサバ、ホップについての評価は？
→冬コムギとオオムギについては共同研究や委託研究を提案するも時間感覚の違いなどで不調に終わる。最終的に、これらの将来シナリオはコムギと同じではいかがでしょうかと提案
→アブラヤシについては既存文献を紹介
→ホップについては当方で対応できない旨を回答